# 2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月12日


上場会社名　　株式会社シキノハイテック　　上場取引所　東
コード番号　　6614　　ＵＲＬ　https://www.shikino.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長執行役員　　（氏名）高橋　信一
問合せ先責任者　（役職名）常務取締役執行役員管理本部長　（氏名）舛田　敏彰　　ＴＥＬ　0765-22-3477

半期報告書提出予定日　　2026年11月12日　　配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　　：有

（百万円未満切捨て）

## １．2027年３月期第２四半期（中間期）の業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

### （１）経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 中間純利益 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2027年３月期中間期 | 3,398 | 6.2 | 113 | － | 115 | － | 81 | － |
| 2026年３月期中間期 | 3,199 | 1.4 | △102 | － | △104 | － | △50 | － |

| | １株当たり中間純利益 | 潜在株式調整後１株当たり中間純利益 |
|---|---|---|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2027年３月期中間期 | 18.62 | － |
| 2026年３月期中間期 | △11.44 | － |

### （２）財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2027年３月期中間期 | 5,684 | 2,353 | 41.4 |
| 2026年３月期 | 5,765 | 2,291 | 39.7 |

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　2,353百万円　2026年３月期　2,291百万円

## ２．配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 第１四半期末 | 第２四半期末 | 第３四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2026年３月期 | － | 0.00 | － | 15.00 | 15.00 |
| 2027年３月期 | － | 0.00 | | | |
| 2027年３月期（予想） | | | － | 15.00 | 15.00 |

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## ３．2027年３月期の業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | １株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 6,709 | 3.4 | 117 | － | 107 | － | 82 | － | 18.67 |

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ①　期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2027年３月期中間期 | 4,426,000株 | 2026年３月期 | 4,426,000株 |
| ②　期末自己株式数 | 2027年３月期中間期 | 26,677株 | 2026年３月期 | 34,877株 |
| ③　期中平均株式数（中間期） | 2027年３月期中間期 | 4,393,963株 | 2026年３月期中間期 | 4,407,686株 |

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．当中間決算に関する定性的情報（４）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当中間決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）キャッシュ・フローの状況 …… 3
（４）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
（５）継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
２．中間財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間貸借対照表 …… 4
（２）中間損益計算書 …… 5
（３）中間キャッシュ・フロー計算書 …… 6
（４）中間財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等の注記） …… 7

## １．当中間決算に関する定性的情報

### （１）経営成績に関する説明

当中間会計期間における世界経済は、地政学リスクとして中東地域における軍事的緊張の継続やロシア・ウクライナ情勢の長期化に加え、米国による対外通商政策の変動、中国の景気減退の継続など、先行きが不透明な状況で推移しました。国内においても雇用・所得環境が改善に向かう中で緩やかな景気の持ち直しが期待される一方、中東情勢の影響による燃料・資材価格の高騰など、引き続き不透明な状況が続くことが予測されます。半導体市場においては、生成AIの活用浸透によりデータセンター向け需要が拡大しているほか、AI機能搭載パソコンやスマートフォンの普及により高性能ロジック半導体やメモリの需要も堅調に推移しましたが、メモリ価格の高騰は依然として継続しています。また、データセンターへの投資が増える中、新たに基板材料の調達も厳しさを増してきています。車載向け半導体に関しては、足元ではEV需要減速や在庫調整の影響を受けるものの、電動化やADAS、SDV化の進展により、中長期的には堅調な成長が見込まれ、車載用パワー半導体や車載LSI設計需要は引き続き底堅く推移しています。

このような環境の中、電子システム事業においては、高電力LSI向け及びイメージセンサー向けカスタムバーンインボードの受注が増加したほか、AI製品用モジュール向けバーンインボードの受注が順調に推移しました。半導体関連商材の売上は前年同期比増の実績となりました。産業機器分野では、EV市場の不透明感を背景に車載向け専用計測器の受注低迷が続いた一方、産業向け商材はリピート案件の獲得、新規開拓案件の受注により堅調に推移しました。防衛関連は開発から量産に推移したことに加え、今後の案件獲得に向けた活動を進めました。福島事業所では、一部主要顧客からの受注減少が継続したものの、海外調達の見直し推進による部材調達の安定化と、新規品種の立上げを進めました。

マイクロエレクトロニクス事業においては、自動車向けLSI設計受託に引き続き注力しており、アナログLSI設計では、パワートレイン向け電源・センサIC開発が堅調に推移しました。デジタルLSI設計では、前期より取り組み、受注したスマートグラス向け画像処理IC開発が順調に拡大しました。IP販売では衛星向けJPEGライセンスを新規契約したほか、昨年リリースした画像圧縮JPEG XL-IPの派生品開発が完了し、販売を開始しました。また、米CAST社と同社IP製品に関する国内販売代理店契約を締結し、販売活動を開始しました。

製品開発事業においては、ビューカメラ及びセンシング製品の出荷が堅調に推移し、特にコンビニ・POSなどの社会インフラ分野が好調を維持しました。また、防衛関連機器の増産やアミューズメント分野向けの受注も寄与し、売上高は計画を上回りました。開発面では、2M-HDR USBカメラの試作が完了し、現在、顧客評価が進んでいます。また、見守りシステムについては、介護ソフトウェアとの連携強化及びユーザーインターフェースの改善が完了し、アップデート版を順次出荷する予定です。

これらの結果、当中間会計期間の経営成績は、売上高3,398,562千円（前年同中間期比6.2%増）となり、営業利益は113,174千円（前年同中間期は営業損失102,861千円）、経常利益は115,688千円（前年同中間期は経常損失104,847千円）、中間純利益は81,822千円（前年同中間期は中間純損失50,432千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

ａ．電子システム事業

電子システム事業においては、自動車市況の不透明感を背景とした想定内の車載顧客受注減や、福島事業所における量産顧客の在庫調整継続による受注減の影響が継続しました。加えて、防衛向け計測商材は開発から量産フェーズに変わった事によるマイナス影響があった反面、半導体のカスタムバーンインボードの新品種向け受注及びリピート製作の増加、産業商材のリピートや新規受注が増え、主力商材の入れ替えも進んだ結果、電子システム事業全体として受注は拡大、前年比増となりました。

これらの結果、電子システム事業は、売上高は1,613,518千円（前年同中間期比3.1%増）、セグメント営業利益は16,500千円（前年同中間期はセグメント営業損失86,670千円）となりました。

ｂ．マイクロエレクトロニクス事業

マイクロエレクトロニクス事業においては、自動車向け及びモバイル向けのLSI設計受託が堅調に推移し、アナログLSIでは既存海外顧客より新規開発テーマを受注しました。デジタルLSIでは前期に受注したスマートグラス向けLSI設計受託の開発が本格化し、受注が順調に推移しました。IP販売のロイヤルティについては、モバイル向けを中心に堅調に推移しました。また、ライセンスについても衛星向けと海外のモバイル向けで新規契約を獲得し、売上拡大につながりました。

これらの結果、マイクロエレクトロニクス事業は、売上高は1,132,531千円（前年同中間期比6.1%増）、セグメント営業利益は139,935千円（前年同中間期比111.3%増）となりました。

ｃ．製品開発事業

製品開発事業においては、コンビニ向け及び防衛関連機器向けが好調に推移しました。FA検査機器向けの

一時的な減速や、ドローン向けカスタム開発案件の下期へのスライドによる影響は有りましたが、アミューズメント分野及びPOS向け製品の伸長によりカバーし、業績は堅調に推移しました。

これらの結果、製品開発事業は、売上高は652,512千円（前年同中間期比14.9%増）、セグメント営業損失は43,261千円（前年同中間期はセグメント営業損失82,410千円）となりました。

（２）財政状態に関する説明

(資産)

当中間会計期間末における資産合計は、5,684,517千円となり、前事業年度末に比べ、81,092千円減少いたしました。これは主に、原材料及び貯蔵品が292,814千円、現金及び預金が280,077千円、投資その他の資産のその他が55,769千円、流動資産のその他が49,206千円増加した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が485,613千円、仕掛品が119,693千円、製品が75,746千円、繰延税金資産が36,178千円、無形固定資産が25,351千円、電子記録債権が17,071千円減少した影響によるものであります。

(負債)

当中間会計期間末における負債合計は、3,331,456千円となり、前事業年度末に比べ、142,353千円減少いたしました。これは主に、電子記録債務が336,663千円、長期借入金（１年内返済予定の長期借入金を含む）が180,025千円、退職給付引当金が15,234千円、未払法人税等が14,638千円増加した一方、短期借入金が500,000千円、流動負債のその他が159,992千円、支払手形及び買掛金が23,158千円減少した影響によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末における純資産合計は、2,353,061千円となり、前事業年度末に比べ、61,260千円増加いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が36,524千円、利益剰余金が15,955千円増加したことによるものであります。

これらの結果、自己資本比率は41.4%（前事業年度は39.7%）となりました。

（３）キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、498,445千円となり、前事業年度末に比べて280,077千円増加いたしました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は710,878千円（前年同中間期に使用した資金は442,497千円）となりました。これは主に、売上債権の減少額502,684千円、仕入債務の増加額313,504千円、その他負債の減少額157,956千円、税引前中間純利益115,688千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は42,520千円（前年同中間期に獲得した資金は27,151千円）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出36,001千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は388,280千円（前年同中間期に獲得した資金は263,838千円）となりました。これは主に、短期借入金による純減少額500,000千円、長期借入れによる収入300,000千円、長期借入金の返済による支出119,975千円、配当金の支払額65,149千円等によるものであります。

（４）業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間会計期間の業績は当初予想を上回って推移し、利益面では通期予想に近い水準まで進捗しております。一方、部材の調達環境が厳しさを増すなど先行きには不確実な要素もあり、下期の業績については現時点では慎重に見極める必要があると判断しております。これらを総合的に勘案し、2026年５月15日に公表いたしました2027年３月期通期業績予想を据え置くことといたします。今後の業績動向に応じて、業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに公表いたします。

（５）継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## ２．中間財務諸表及び主な注記

### （１）中間貸借対照表

（単位：千円）

| | 前事業年度<br>（2026年３月31日） | 当中間会計期間<br>（2026年９月30日） |
|---|---|---|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 218,367 | 498,445 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 2,430,591 | 1,944,977 |
| 電子記録債権 | 174,805 | 157,733 |
| 製品 | 283,256 | 207,510 |
| 仕掛品 | 315,421 | 195,728 |
| 原材料及び貯蔵品 | 383,810 | 676,625 |
| その他 | 154,831 | 204,038 |
| 流動資産合計 | 3,961,084 | 3,885,058 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物（純額） | 452,255 | 445,245 |
| 土地 | 457,539 | 457,539 |
| その他（純額） | 82,973 | 90,677 |
| 有形固定資産合計 | 992,768 | 993,462 |
| 無形固定資産 | 208,343 | 182,991 |
| 投資その他の資産 | | |
| 繰延税金資産 | 472,883 | 436,704 |
| その他 | 130,530 | 186,300 |
| 投資その他の資産合計 | 603,414 | 623,005 |
| 固定資産合計 | 1,804,525 | 1,799,459 |
| 資産合計 | 5,765,610 | 5,684,517 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 169,459 | 146,300 |
| 電子記録債務 | 104,483 | 441,146 |
| 短期借入金 | 1,000,000 | 500,000 |
| １年内返済予定の長期借入金 | 183,336 | 215,907 |
| 未払法人税等 | 15,139 | 29,777 |
| 賞与引当金 | 214,671 | 211,234 |
| 受注損失引当金 | 51,861 | 52,682 |
| その他 | 480,438 | 320,445 |
| 流動負債合計 | 2,219,389 | 1,917,494 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 194,265 | 341,719 |
| 退職給付引当金 | 931,110 | 946,344 |
| 資産除去債務 | 110,000 | 110,000 |
| その他 | 19,043 | 15,897 |
| 固定負債合計 | 1,254,419 | 1,413,961 |
| 負債合計 | 3,473,809 | 3,331,456 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 421,739 | 421,739 |
| 資本剰余金 | 354,277 | 355,637 |
| 利益剰余金 | 1,483,899 | 1,499,854 |
| 自己株式 | △27,225 | △19,805 |
| 株主資本合計 | 2,232,691 | 2,257,427 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 59,109 | 95,634 |
| 評価・換算差額等合計 | 59,109 | 95,634 |
| 純資産合計 | 2,291,801 | 2,353,061 |
| 負債純資産合計 | 5,765,610 | 5,684,517 |

（２）中間損益計算書

（単位：千円）

| | 前中間会計期間<br>（自　2025年４月１日<br>至　2025年９月30日） | 当中間会計期間<br>（自　2026年４月１日<br>至　2026年９月30日） |
|---|---|---|
| 売上高 | 3,199,465 | 3,398,562 |
| 売上原価 | 2,728,162 | 2,711,954 |
| 売上総利益 | 471,302 | 686,608 |
| 販売費及び一般管理費 | 574,164 | 573,433 |
| 営業利益又は営業損失（△） | △102,861 | 113,174 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 65 | 127 |
| 受取配当金 | 1,439 | 2,200 |
| 仕入割引 | 64 | 212 |
| 受取補償金 | 1,880 | － |
| 資材売却益 | 1,727 | 4,975 |
| 役員報酬返納額 | － | 3,179 |
| その他 | 1,134 | 2,619 |
| 営業外収益合計 | 6,313 | 13,314 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 4,131 | 9,086 |
| 譲渡制限付株式関連費用 | 1,928 | 1,130 |
| 為替差損 | 917 | 324 |
| その他 | 1,322 | 259 |
| 営業外費用合計 | 8,299 | 10,800 |
| 経常利益又は経常損失（△） | △104,847 | 115,688 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 32,094 | － |
| 特別利益合計 | 32,094 | － |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 0 | 0 |
| 投資有価証券売却損 | 3,635 | － |
| 特別損失合計 | 3,635 | 0 |
| 税引前中間純利益又は税引前中間純損失（△） | △76,388 | 115,688 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,724 | 14,375 |
| 法人税等調整額 | △27,681 | 19,491 |
| 法人税等合計 | △25,956 | 33,866 |
| 中間純利益又は中間純損失（△） | △50,432 | 81,822 |

（３）中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

| | 前中間会計期間<br>（自　2025年４月１日<br>至　2025年９月30日） | 当中間会計期間<br>（自　2026年４月１日<br>至　2026年９月30日） |
|---|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前中間純利益又は税引前中間純損失（△） | △76,388 | 115,688 |
| 減価償却費 | 67,389 | 66,734 |
| 賞与引当金の増減額（△は減少） | 38,741 | △3,437 |
| 受注損失引当金の増減額（△は減少） | △3,777 | 821 |
| 退職給付引当金の増減額（△は減少） | △14,639 | 15,234 |
| 受取利息及び受取配当金 | △1,505 | △2,327 |
| 支払利息 | 4,131 | 9,086 |
| 為替差損益（△は益） | 0 | 0 |
| 有形固定資産除却損 | 0 | 0 |
| 投資有価証券売却損益（△は益） | △28,459 | － |
| 売上債権の増減額（△は増加） | △273,428 | 502,684 |
| 棚卸資産の増減額（△は増加） | 18,360 | △97,375 |
| 仕入債務の増減額（△は減少） | △34,529 | 313,504 |
| その他 | △107,269 | △214,741 |
| 小計 | △411,375 | 705,872 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,505 | 2,327 |
| 利息の支払額 | △4,076 | △8,957 |
| 法人税等の支払額又は還付額（△は支払） | △28,551 | 11,635 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △442,497 | 710,878 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △26,331 | △36,001 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △9,535 | △6,519 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △300 | － |
| 投資有価証券の売却による収入 | 65,254 | － |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △1,935 | － |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 27,151 | △42,520 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額（△は減少） | 350,000 | △500,000 |
| 長期借入れによる収入 | 100,000 | 300,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △82,482 | △119,975 |
| リース債務の返済による支出 | △3,120 | △3,155 |
| 自己株式の取得による支出 | △34,452 | － |
| 配当金の支払額 | △66,106 | △65,149 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 263,838 | △388,280 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △0 | △0 |
| 現金及び現金同等物の増減額（△は減少） | △151,507 | 280,077 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 557,141 | 218,367 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 405,634 | 498,445 |

（４）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 中間損益計算書計上額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 電子システム事業 | マイクロエレクトロニクス事業 | 製品開発事業 | 合計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,564,620 | 1,067,022 | 567,822 | 3,199,465 | － | 3,199,465 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | － | － | － | － | － | － |
| 計 | 1,564,620 | 1,067,022 | 567,822 | 3,199,465 | － | 3,199,465 |
| セグメント利益又は損失（△）（注） | △86,670 | 66,219 | △82,410 | △102,861 | － | △102,861 |

（注）セグメント利益又は損失(△)の合計額は中間損益計算書の営業損失と一致しております。

Ⅱ　当中間会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 中間損益計算書計上額 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 電子システム事業 | マイクロエレクトロニクス事業 | 製品開発事業 | 合計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 1,613,518 | 1,132,531 | 652,512 | 3,398,562 | － | 3,398,562 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | － | － | － | － | － | － |
| 計 | 1,613,518 | 1,132,531 | 652,512 | 3,398,562 | － | 3,398,562 |
| セグメント利益又は損失（△）（注） | 16,500 | 139,935 | △43,261 | 113,174 | － | 113,174 |

（注）セグメント利益又は損失(△)の合計額は中間損益計算書の営業利益と一致しております。